

秋田県市町村未来づくり協働プログラム

八郎潟町プロジェクト「駅前にぎわい・ふれあい・元気プロジェクト」における事後評価調書

1 プロジェクトの目的

公共交通機関が集中している八郎潟駅前において、図書館、子育て支援、イベント会場等の機能を備えた複合施設を整備するとともに、これらを活用した利用促進やにぎわい創出等の取組を実施することにより、全ての世代のふれあいと交流、にぎわい創出につなげ、「元気あふれるまちづくり」の推進を図る。

2 プロジェクトの概要

策定年月日	実施期間	市町村総事業費 (千円) A	交付金 (千円)	県事業・ 協働事業費 (千円) B	総事業費 (千円) A + B
H26. 1. 20	H25～H28	924, 785 (924, 753)	200, 000	0	924, 785 (924, 753)

※市町村総事業費欄の（ ）内は計画値

【プロジェクトを構成する事業】

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	実施年度
読書活動推進による教養の向上	875, 151	200, 000	H26～H28
子育て支援環境の充実	24, 904	0	H26～H28
交流広場を活用したにぎわいの創出	24, 730	0	H26～H28
計	924, 785	200, 000	

3 プロジェクトの成果指標と達成状況

指標名	基準値 (25年度)	目標値 (28年度)	実績値 (28年度)	達成率 (%)
情報交流拠点施設の利用者数	0 人	50, 000 人	158, 594 人	317. 2
図書の貸出冊数	3, 720 冊	11, 000 冊	29, 619 冊	269. 3
拠点施設の町民満足度割合	0%	80%	97. 3%	121. 6

4 はちパル認知度及び利用度、満足度アンケートの調査結果

このアンケートは本プロジェクトを評価するにあたり、定量・定性的観点から自己評価する必要があるため、その評価方法の一つとして八郎潟町内外在住者の「はちパル」の認知度、利用度、満足度を調査したものである。

アンケートの結果、八郎潟町内の「はちパル」の認知度は100%、利用者は回答者138人中113人と利用度8割を超える非常に高い結果が出た。各施設の満足度においても「やや満足」「満足」と

回答した方がそれぞれ8割～9割を超えており、非常に良い結果が出た。

それに比べ八郎潟町外は「はちパル」の認知度は高いものの回答者138人中45人と全体の3割が認知していなかった。利用度も「はちパル」を知っていると答えた93人中49人と全体の5割となり、町内在住者に比べ認知度と利用度が低い結果が出た。しかし、町内及び町外利用者の満足度は「やや満足」「満足」と答えた方がそれぞれ8割と良い結果が出ている。

調査期日：平成29年6月16日～7月31日

調査対象：町内在住者の「はちパル」利用者、未利用者（各町内会）160名

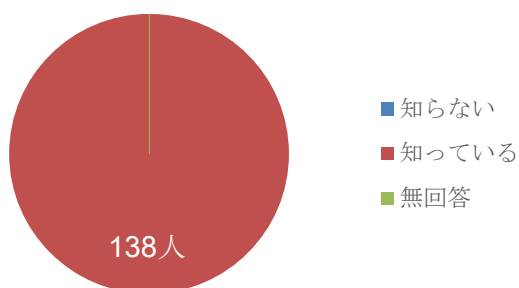
町外在住者の「はちパル」利用者、未利用者（南秋田郡地区の企業・法人等）140名

回収率：町内回収率 86%（160人中138人回答）

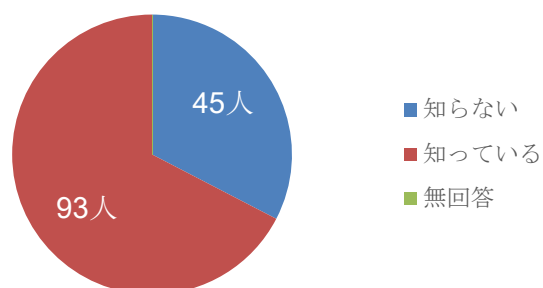
町外回収率 99%（140人中138人回答）

全体回収率 92%（300人中276人回答）

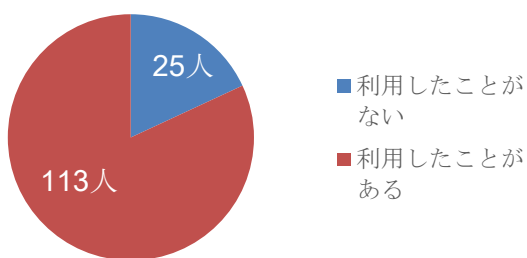
八郎潟町内 認知度



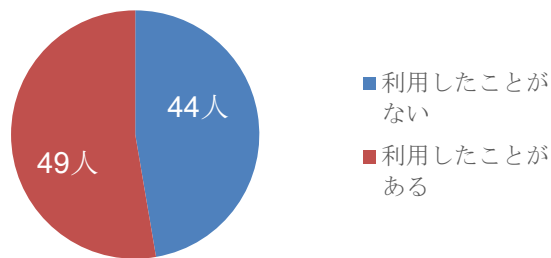
八郎潟町外 認知度

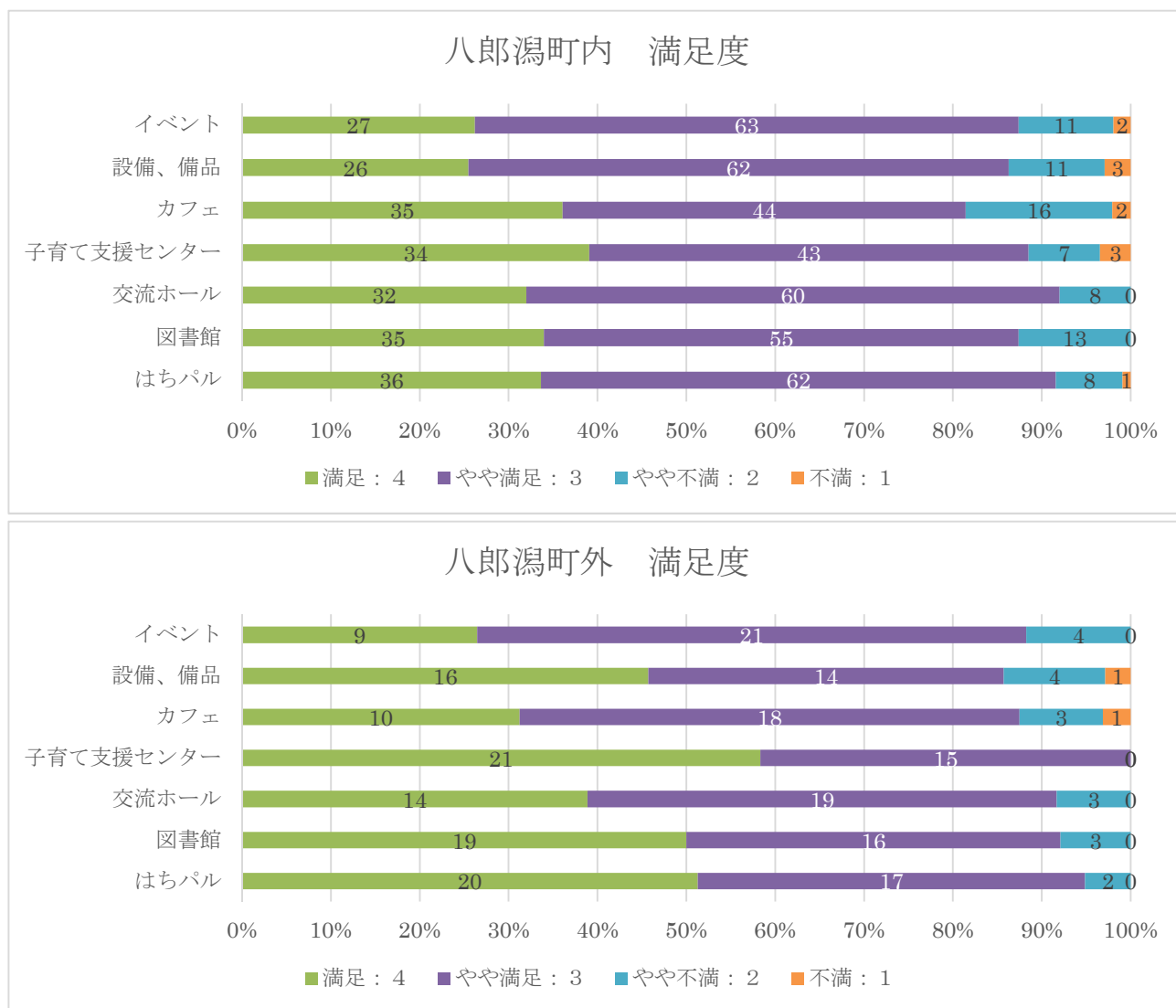


八郎潟町内 利用度
(知っていると答えた方のみ)



八郎潟町外 利用度
(知っていると答えた方のみ)





5 民間アドバイザーの意見

(民間アドバイザー: NPO法人あきたパートナーシップ 理事長 菅原 展子 氏)

(1) 「はちパル」の利用促進について

「はちパル」のような施設の大半はオープン当初は良く利用されるが、年数が経過するにつれて利用者が減少する傾向が見られるので、様々な工夫をすることによってにぎわいを保つ必要がある。

(2) 「はちパル」のフリースペースについて

多目的スペースや交流ホールが会議や講習会、イベントなどで利用されるため、一般の人が自由に使えない状況が見られる。「はちパル」は交通に至便な場所にあり、もっと自由に利用できるスペースを作り出せば更に多くの人に利用されると思われる。

多目的スペースや交流ホール、多目的ルームの使い方を工夫することによって、効率的で、かつ、様々な利用形態に対応した活用策を検討する必要がある。

(3) 「はちパル」の認知度向上について

子育て支援センターや図書館機能を活用し、八郎潟町周辺の市町村と連携した取組を企画・実施し、町内外に「はちパル」の認知度を高める必要がある。

（４）広報誌における図書館の紹介について

町の広報誌の図書館コーナーに、「“こんな本が入りました”と具体的な書名を紹介する」、「“私が本のコンシェルジュ（案内人）です”と司書の写真とプロフィールを載せる」、「町長や校長先生等の“私のおすすめの一冊”という記事を載せる」など、町民が図書館を身近に感じるような工夫をする必要がある。

6 全体評価

プロジェクト構成事業については、計画した事業を概ね実施することができ、計画時に掲げた成果指標については、いずれも達成率１００％以上の高評価を得ている。

特に町民満足度割合は実績値９７．３％と非常に高評価であり、利用者数も目標値の３倍以上の数値が出ていることは、本プロジェクトとして大きな成果と捉えている。

利用者数は、１０代の中高生等若い世代が特に多く、駅に近いため電車の待ち時間や親の送迎待ちにできた空き時間に図書館を利用するケース等により貸出冊数も増加したと思われる。

また、アンケートの調査結果では、八郎潟町内在住者の認知度、利用度、満足度は非常に高い結果が出ており、八郎潟町外の方の満足度も高い結果が出ている。しかし、八郎潟町外の認知度は町内に比べ低かったため、「はちパル」がどのような施設かが認知されることによって、利用者数はさらに増えると思われる。

7 今後の推進方針

民間アドバイザーの意見や全体評価を踏まえ、次のとおり推進するものとする。

（１）「はちパル」のフリースペースについて

交流ホールや多目的スペースの利用状況からすると、常時フリースペースとして使用することはできないものの、交流ホールの分割利用や２階管理通路の開放などによって、多様なフリースペースの確保を図る。

（２）「はちパル」の認知度向上について

町外の事業所を対象としたアンケート調査での認知度は６７％となっていることから、今後も引き続き新聞・雑誌・広報等を使ったＰＲを継続するとともに、より魅力的なイベント・事業の開催や、フェイスブック等ＳＮＳを活用した情報発信を強化するなど更なる認知度向上に努める。

（３）広報誌における図書館の紹介について

町広報には毎月「図書館からのお知らせ」を掲載するほか、２ヶ月毎に図書情報や展示情報、利用促進に向けた各種イベント情報を掲載した「図書館ＬＩＦＥ」を発行するなど、今後も継続して利用促進を図る。

【プロジェクトチーム構成員】

八郎潟町	総務課、教育課、福祉課、産業課、建設課
秋田県	総合政策課、次世代・女性活躍支援課、生涯学習課、秋田地域振興局、地域の元気創造課（幹事課兼事務局）